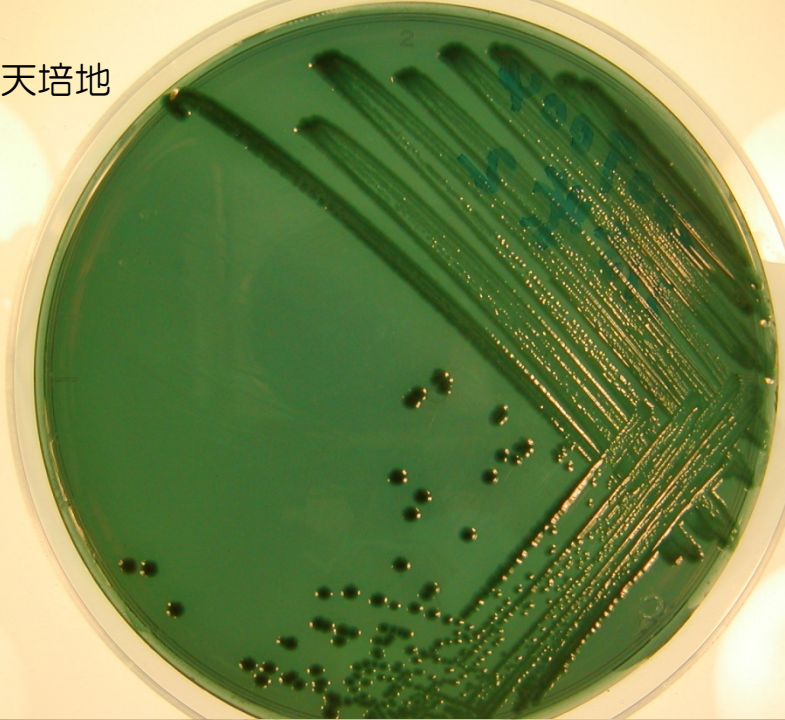


腸炎ビブリオのプロフィール

- ・ *Vibrio parahaemolyticus*
1950（昭和25）年10月、大阪府で発生したシラス中毒（患者数272名、うち死者20名）を契機として、日本で発見された食中毒細菌
- ・ グラム陰性通性嫌気性桿菌、鞭毛を有し、運動性（+）、増殖速度が大腸菌の約2倍
- ・ 増殖至適塩分濃度2～3%の好塩性、真水では増殖できない、酸や熱に弱い
- ・ 沿岸海域に広く分布し、海水温が15℃以上になると海水から分離されるようになる
- ・ 血清型：O抗原とK抗原の組み合わせ（ex. O4:K8, O3:K6）
日本の流行株はO4:K8であった。
O3:K6は、1996（平成8）年以降に全国的に流行するようになった
- ・ 病原因子
耐熱性溶血毒（TDH：thermostable direct hemolysin）
耐熱性溶血毒関連毒（TRH：TDH-related hemolysin）
食品や環境からこれらの毒素産生株を分離することは非常に難しい
Ⅲ型分泌装置など新たな病原因子に関する研究も進められている
- ・ 食中毒症状 急性胃腸炎、激しい腹痛・下痢、嘔吐、潜伏時間数時間～24時間
- ・ 食中毒予防
魚介類は真水でよく洗う
低温管理の徹底により増殖を抑える
加熱処理を行う（60℃、10分間の加熱で死滅）
二次汚染、特に二枚貝の取扱に注意（Vp保有率が非常に高い）

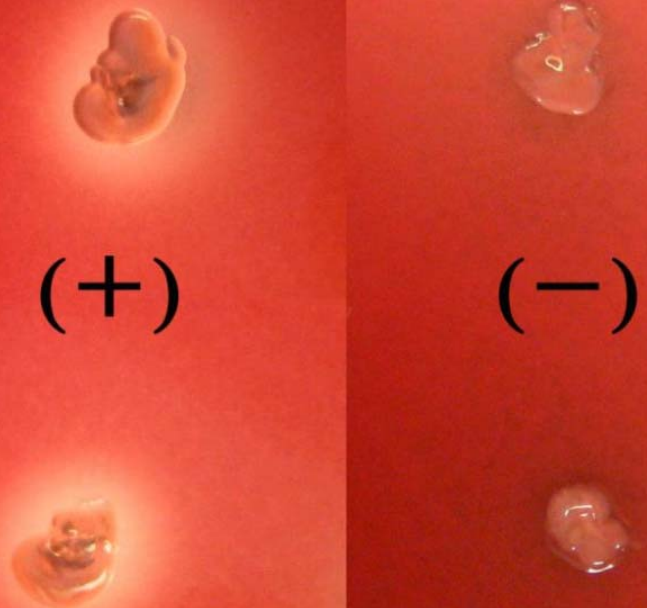
腸炎ビブリオのコロニー

- ・腸炎ビブリオの選択培地といえばかつてはTCBS寒天培地であった。現在では食中毒患者便からの分離に利用されている。海水や食品など競合菌の多い検体では見つけにくいいため、優れた培地として酵素基質培地が使われている。
 - ・患者便から分離される腸炎ビブリオにはヒト赤血球溶血性（神奈川現象陽性）を示すが、原因食品や自然界からはほとんど分離されない。長い間の謎とされてきた。
- ※画像提供：三重県保健環境研究所



TCBS寒天培地

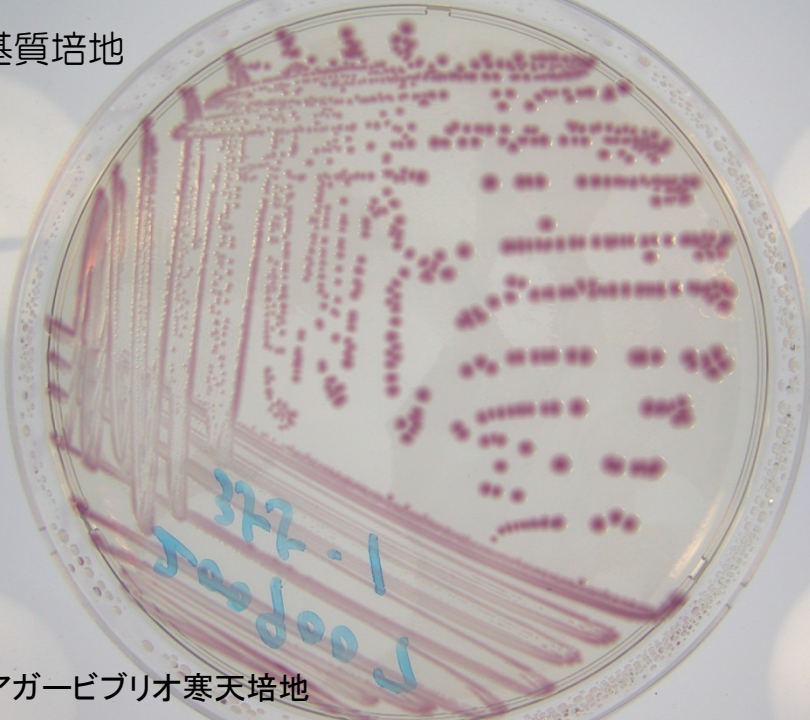
我妻寒天培地（ヒト赤血液）



(+)

(-)

酵素基質培地



クロモアガービブリオ寒天培地